

子どものかげがえのない命を守るために

下田川ライオンズクラブが4月13日に町教育委員会を訪れ、ドライバーから目立つ黄色い帽子を寄贈しました。昨年の小学生の交通事故発生件数は全国で1163件。特に新1年生の通学路での事故は5、6月に集中しています。「子どもは地域の財産。楽しい学校生活がスタートした新入生を危険から守って欲しい」という強い思いがこの帽子に託されました。



↑黄色い帽子と図書カード(新入生212人分)が、辻村教育長に手渡されました。

↓一際目立つ福智ブース。福智ならではの逸品は幅広い世代から大盛況でした。



自慢の福智ブランドを広くPR

4月5日にトヨタ九州主催の交流イベントが宮若市で開かれ、福智町は「方城すいとん」「大福おぼちゃんのかしわおにぎり」「ふくち☆リッチジェラート」を出展しました。ふるさとへの思いを込めた福智名物を多くの人に知ってもらうため、今年も計400食を用意。詰めかけた約1万人の来場者に福智の味をしっかりと発信し、午前中で完売するほど大盛況でした。

福智が誇る観光資源めぐり

桜の開花がすすむ3月29日、虎尾桜の保護活動をしている「虎尾桜を心配する世話人会」は、桜を觀賞しながら周辺の史跡を探访する毎年恒例のツアーを催しました。上野地区の大庄屋敷跡や光ヶ池、興国寺、平石、虎尾桜など福智が誇る重要な観光資源を巡り見どころ満載。参加者たちは地域に眠る史跡の奥深さを知り、思わず感嘆の声を上げていました。



↑足利尊氏ゆかりの興国寺の歴史を学び、地元の魅力を再発見する参加者たち。

↓線路の溝に車輪をとられながらも、力いっぱい山笠を引っ張る子どもたち。(町部)



大人顔負けの子ども山笠 迫力満点

4月18・19日に金田地区で菅原神社春祭りが行われ、「オーラヤッサ」という元気いっぱいの掛け声とともに子ども山笠が町内を巡りました。秋の神幸祭とは違って、この春祭りは子どもが中心となって大きな山笠を引っ張ります。地区の大人に温かく見守られながら町部、宝見、上金田、神崎二の計4基の山笠が各地区を巡行し、とてにぎやかに春を彩りました。

↓支柱やワイヤーに支えられた県内最大のエンドヒガン。今年も満開を迎え、多くの人を魅了しています。



待ちわびた春の訪れを告げる一本桜

福智山の中腹にたたずむ推定樹齢600年を数える巨桜「虎尾桜」。今年は桜の開花を前にしての冷え込みが続き、例年よりも一週間程開花が遅れ、4月2日頃に満開を迎えました。かつては枯死寸前であったにもかかわらず、「虎尾桜を心配する世話人会」や樹木医らのたゆまない努力で蘇り、平成16年以降は毎年見事な花を咲かせています。裏年に当たる今年も見応え十分。この鮮やかな緋色の桜を一目見ようと今年も多くの人々が県内外から訪れ、その圧倒的な華麗さに思わず感嘆の声をもらっていました。

「あがいけのこばなし」CDがついに完成

ボランティアグループ青い鳥によって音読された「あがいけのこばなし」のCDが完成しました。今までは小冊子とカセットテープのみでしたが、「赤池の心温まる昔話を子どもや孫に伝えたい」というふるさとを愛するみなさんの願いによってCD化が実現。青い鳥代表の桑野さんは「今後は金田・方城地区の昔話も読んでCDにしたい」と熱い思いを語りました。



↑こばなし全33話を収録したCD。社会福祉協議会で三枚千円で購入できます。

↓6年生全員からの温かい歓迎を受け、リコーダーの演奏に耳を傾ける新1年生。



友達たくさんできるかな 目を輝かせ初登校

町内の小学校で4月8日に、中学校で9日に入学式が行われ、新入生は澄み渡る青空の下で晴れやかに校門をくぐりました。今年小学生212人(金田小76・市場小59・上野小13・伊方小51・弁城小13)、中学生222人(金田中81・赤池中74・方城中67)が入学。金田小では6年生が歌やリコーダー、なわとびを披露し、和やかな雰囲気でも新入生を迎えました。